



【緑地を楽しむ本】

くらべてみよう！学校のまわりの外国から来た植物

① 校庭 ② 道路 ③ 田んぼ/畑/川

亀田龍吉/写真・文 汐文社

最近よく見かける花だ
なあ・・・と思ってよく見る

と、大体が外国から来た花、外来種であることが多いような気がします。そんなことが気になっていたのです、何が外来種で何が在来種なのか、この本で確かめてみました。

面白いことに、外来種には、それとよく似た在来種があるのですね。例えば昔からの馴染みのカタバミ。最近、カタバミにしては背が高いな、と思っていたら、これは外来種でオッタチカタバミというのだそうです。本では両方を比べているので、違いがよくわかりました。どうも最近いつも目にするのはオッタチカタバミのほうだったようです。これはごく最近、昭和になってから日本に入ってきたのですね。今までのカタバミがどうなるのか、気になるところです。

というのは、ヒツキムシ。子ども達が服につけあつてははしゃいでいるオナモミですが、あれはほとんどがオオオナモミという外来種で、日本に昔からあつたオナモミは今はほとんど見られなくなったとか。入ってきた国に元々似たような種があると、どちらかが勢力を広げて他方は衰退していつてしまうのでしょうか、在来種のほうが負けて少なくなってしまうというのが、残念です。

もちろん、外来の植物だって好きこのんで日本に来たわけではありません。人間に連れられて来てしまったのです。むやみに敵視するのではなく、でも在来種と外来種の攻防はしっかり見守っていかななくては・・・と思いました。

(小川)